

銚子ジオパーク市民の会 ニュース

第109号

2020年10月29日発行

発行責任 工藤 忠男

銚子ジオパーク市民の会

URL: <https://choshigeopark.com>



屏風ヶ浦 (銚子市)

『ジオパークの森のクロマツを守ろう!』

銚子ジオパーク推進協議会 事務局局長 小川 正俊

去る10月4日にジオパークの森(君ヶ浜国固有林)で環境美化活動を実施しました。

当日は、市民の会やナルク

銚子の会員を中心に30人程が参加、クロマツの植生を再生するため根本付近に堆積したウッドチップの除去やごみ拾い、除草作業を行いました。

このウッドチップ、どうやら林野庁の委託業者が枯れ虫で枯れた松を伐採後、その場でチップに粉碎し山積みにしたもので、本来ならば林内の歩道に敷き詰める約束だったとか。

私の幼少期は、松林で「かや」と呼ばれる落ち葉を集めて風呂や焚火の火種として使っていました。当時の松林は雑草がほとんどなく管理が行き届き、秋には競ってハツタケ(初茸)を収穫し味噌汁の具として味覚を楽しんだものです。

時代が進み給湯器の普及により「かや」を燃料に使うことはなくなりました。同時に松

来館者には先ず「手を消毒してください」とお願い。

ジオに関心の無いお客様には、三越の包装紙のモデルは、犬吠埼の石である事、東映のオープニングシーン「荒波に磯」の岩も犬吠埼崖下の岩がモデルである事などを説明すると、目を輝かせて「見て来ます」と。

私が心掛けている事は自分の知識の押し付けはせず、お客様

の目線で見れば、魅力の発見のお手伝いをする事です。

また、保全の目的で、銚子のずかん、おみくじ・ジオアート

の販売もしています。お客様と太古の昔に夢を馳せながら、ジオの話題で盛り上がった時、「楽しかった、また来ます」と、言って頂けた時の喜びは格別です。

ビジターセンターでのおもてなし

加瀬 久美子

くとは思っておりません。

なく岩に頭をたたきつけて、不慮の事故により多額の保険金が出るな!なんてことをチラッと思い浮かべながらも慎重に、落下しないように作業は続けました。

時間が経つにつれ、観光客の方や犬を連れた散歩の方などが、足を止めてはこちらを見上げていました。

屏風ヶ浦の保全活動に参加して 保立 和則

8月22日(土)に屏風ヶ浦

の崖下に生い茂った雑草を刈り取る作業が行われました。

朝8時半、真夏の太陽はまだ照り付けてはいませんが、風はほとんど無く、作業を始めてすぐに汗が吹き出します。

急斜面に背丈ほどもある雑草は鎌ではとても刈り取れず、ノコギリを使って刈りながら上へと進みますが、そのすぐ左側は、更にすごい崖になっていて、眼下には小川が流れているのですが、川の中にはデッキカヤ岩がゴロゴロと足を滑らせて転落すれば間違いなく



屏風ヶ浦の保全活動